

平素より、患者さんのご紹介をいただき、有難うございます。
 当院では、小児科以外は予約制で診察を行っております。
 患者さんのご紹介に際しましては、紹介状をご用意いただき
 事前のご予約を、お願い申し上げます。

事前に必ずご予約を

医療機関からのご予約は 地域連携直通電話・FAX へお願いします。
 TEL: 047-458-6543 FAX: 047-458-6545

- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～11:30
 ※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 はお取り扱いしておりません。
- ・ 時間外の場合は FAX を送信してください。翌受付時間内にお返事いたします。

患者さんからのご予約は 電話予約センター にて承ります。
 予約センター電話番号: 047-458-6600 (患者さん専用)

- ・ 最初に音声ガイダンスが流れます。紹介状をお持ちの患者さんは 1 を押していただきます。
- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～11:30
 ※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 はお取り扱いしておりません。
- ・ 予約時間等の変更時にも、必ず電話にてご連絡ください。

■検査連携について

- ・ 検査連携は、医療機関からの依頼のみの受付になります。直接、患者さんからの受付は出来ません。
- ・ 連携検査: CT、MRI(単純)、RI、X-P、マンモ、骨密度、セファロの画像検査のみです。

■やちよ夜間小児急病センターについて

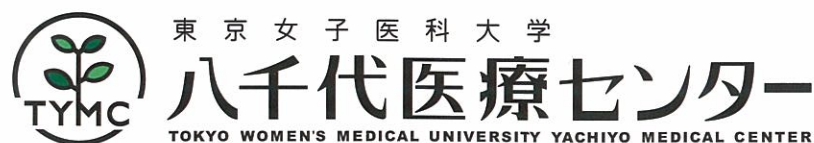
- ・ 専用電話番号: 047-458-6090 (医療相談は行っておりません)
- ・ 受付時間: 18:00～23:00
 ※予約は必要ありませんので、直接ご来院ください。

地域医療連携フォーラム開催決定!

「平成 28 年度 東京女子医科大学八千代医療センター地域医療連携フォーラム」を下記のとおり、平成 29 年 3 月 16 日(木)に開催することが決定いたしました。今回は八千代医療センターの大会議室を会場といたしまして、アットホームでコンパクトなフォーラムを開催できたらと考えております。詳細につきましては、後日改めてご案内させていただく予定でございます。日頃よりお世話になっている八千代市医師会及び歯科医師会をはじめ、近隣医師会や歯科医師会、薬剤師会、地域医療支援病院における連携登録医の先生方のほか、メディカルスタッフや行政機関の皆様を含め、年度末の大変ご多忙の折とは存じますが、多くの方々にご出席賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

『平成 28 年度東京女子医科大学八千代医療センター地域医療連携フォーラム』
 日時: 平成 29 年 3 月 16 日(木) 19 時～21 時(受付開始 18 時 30 分)
 会場: 東京女子医科大学八千代医療センター大会議室(外来棟 4 階)
 第一部 講演会: 春田昭二医師(循環器内科長) 乾政志医師(泌尿器科長)
 第二部 意見交換会・懇親会

問い合わせ先: 八千代医療センター医療支援室 地域連携担当 047-450-6000 内線 2461



〒276-8524
 千葉県八千代市大和田新田 477-96
 047-450-6000(代表)
 医療支援室 TEL 047-458-6543
 FAX 047-458-6545

2016.11
 発行

東京女子医科大学 八千代医療センター 医療支援ニュース



第 17 号

理念: 地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

～ 基本方針 ～

- ・ 本学の理念である「至誠と愛」に基づき、皆さまに信頼される病院を目指します。
- ・ 患者さんのプライバシーを守り、一人ひとりの権利を尊重します。
- ・ つねに最先端の医療技術と知識を用いて、安全で良質の医療を提供します。
- ・ 患者さんに合った最善のチーム医療を行います。
- ・ 中核病院として地域の診療所・病院等との連携を推進し皆さまの健康を維持・増進します。



新病棟 OPEN

新病棟 第2病棟は、八千代市民の方々のご支援・ご協力のもとに平成 27 年 5 月より着工し、平成 28 年 7 月に竣工しました。これで八千代医療センターは平成 28 年 8 月 1 日より 501 床の高度急性期病院として新たに診療業務を始めることができました。これまでのご協力とご支援を厚く感謝いたします。

今後 新病院は従来の特色である小児・周産期センターをさらに充実させていき、八千代市だけでなく習志野市、船橋市などを含んだ千葉県の中核・拠点病院として機能していく予定です。また、高齢者増加に伴う地域疾病構造の変化に対応すべく心・血管系疾患(heart center)、脳血管疾患(stroke care unit)、悪性新生物(がん地域拠点病院)、糖尿病などの成人医療も重点的に整備していきます。

精神・神経疾患は新たに本院から内出医師を招聘し、地域に専門病院が豊富である利点を生かし、地元の病院と連携をますます深めていきたいと思っております。さらに新病棟の最上階にはヘリポートを設置し、三次救急をも扱う救命救急センターが 8 月 1 日よりオープン致しました。その結果、全国でもめずらしい小児と成人を扱える救命救急センターを持ち、さらに地域災害拠点病院もかねたこととなります。

新病院が目指す高度急性期医療は、一病院で完結することは不可能です。地域の病院・診療所や在宅介護施設の方々とともに密接な連携を行い、地域完結型の 21 世紀型の新しい医療圏を目指すこととなります。今後、このように病院機能の整備を進めていきますので、今まで以上に皆様方のご理解、ご支援をお願い致します。



医療支援室の紹介

日ごろより、地域の関係機関の皆様には、大変お世話になっております。

医療支援室（以下支援室）では、ソーシャルワーカー（以下SW）、退院調整看護師（以下退院調整Ns）、地域連携担当事務員（以下地域連携）の3職種の職員が在籍し、患者さん・ご家族が安心して医療を受けることが出来るよう、療養環境に関わる様々な問題に対し、それぞれの立場から支援を行っています。また支援室では院内ボランティアグループの窓口としてサポートを行い、現在16名の院内ボランティアさんの活動も支援しています。

退院調整看護師

3名（内2名は兼務）



退院調整Nsは、入院治療が必要な患者さんが安心して治療を受け、スムーズな退院へと繋ぐことが出来るよう、状況に応じて入院前の外来の段階から、患者さん・ご家族と調整を行っています。また、在宅療養において医療や処置の継続が必要な場合、かかりつけ医又は往診対応可能な医師や地域の訪問看護等と連携し、退院前カンファレンスの開催など在宅療養に関する調整・相談を行っています。院内スタッフとの連携では、入退院支援リンクナース連絡会を通して、退院調整に必要な知識、連携体制、継続看護の必要性など病棟や外来との連携について、ともに検討し支援しています。

地域連携担当事務員

8名（内1名は兼務、3名は非常勤）



地域連携は、地域医療支援病院として八千代市医師会及び歯科医師会など地域の医師会・歯科医師会をはじめ、連携登録医の窓口として、診療や検査の予約、紹介状に対する返信「診療経過報告書」の管理・発送を行っています。また、地域医療連携パス（脳卒中・がん）の管理や当院主催の各種セミナー・講演会情報の配信・問い合わせ等の窓口業務や、平成26年度より「東京女子医科大学八千代医療センター地域医療連携フォーラム」の定期開催、当広報誌「医療支援ニュース greens」の定期発行等、情報発信の窓口としての役割を担っています。

ソーシャルワーカー

5名



SWは現在5名体制（成人担当3名、小児周産期担当2名）で、医療費等の経済的問題をはじめ、療養上の様々な問題に対し、福祉の視点から患者さん・ご家族への支援を行っています。急性期から回復期又は在宅療養への橋渡しとして、病状に応じて回復期リハビリテーション病院や療養型病院、緩和ケアへの転院調整、小児では重症心身障害児の在宅療養環境の整備や施設入所の調整、周産期では未受診など特定妊婦への対応等、SWの相談支援は広範囲に渡っています。また虐待問題への対応など、一医療機関だけで解決できない社会的問題に対しても行政など地域関係機関との連携や医師、看護師、薬剤師、リハビリ、管理栄養士など院内スタッフとのまさにチーム医療の実践の中で、日々奔走しております。実績（相談件数）としては、2014年度新規969件、延べ17,562件。2015年度は新規1173件、延べ20,475件となっています。

今年度8月より第2病棟が増設され、救命救急センター、SCU、がんセンター等、更なる機能強化に伴い、支援室が果たす役割は益々重要となってきております。スムーズな退院調整により、入院を必要とする患者さんがスムーズに入院できる環境を生み出す一方で、病状が安定した患者さんが、紹介元のかかりつけ医の先生方に継続して診療していただけよう、当院が目指す地域完結・地域連携型医療の実現・実行のため、地域のかかりつけ医の先生方との連携は、10周年を迎え、新たな10年に向けて最も重要な課題であると改めて認識しているところであります。

患者さん・ご家族がいつでも安心して相談できる環境の整備は、病院機能において不可欠であり、重要な部門と考えております。今後も各スタッフのスキルアップを図りながら、八千代市をはじめ各地域関係機関のみならず、院内スタッフとの多職種によるチーム医療の実践に向けて、更に努力していきたいと考えておりますので、何卒宜しくお願い致します。

医療支援室長 縄島 正之



心身医療科

科長 内出 容子

これまで、心身医療科では非常勤医師が当院関連症例の精神科的問題に対応して参りました。しかし、週1回半日のみの業務であったため、院内外の先生方の需要に十分お応えできなかったことは否めません。

この度、当センターの増床と高度急性期病院としての機能強化に伴い、精神科医1名が常勤することになりました。目下、必要とされておりますのは『コンサルテーション・リエゾン精神医学』と称される精神医学の中の重要なサブ・スペシャリティです。

これから心身医療科ではこのコンサルテーション・リエゾン業務を充実させていきます。コンサルテーション・リエゾン業務では、高度先進医療に伴う様々な精神医学的問題のニーズへの対応が求められます。せん妄、精神疾患合併症例、精神的苦痛の緩和が必要な症例その他に積極的に対応して参ります。また業務を通じ、精神科医療について抱かれがちな（ネガティブな）先入観を払拭したいとも願っております。

精神疾患は国の五大疾病のひとつでもあります。院内外の先生方、特に地域の先生方と連携させていただき、早期から適切な介入を行って患者さんのQOLの向上、ひいては医療の質の向上を目指したく存じます。どうぞよろしく願いいたします。